

## クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP)

### 第 3 回鉄鋼タスクフォース会合 議長総括案

#### 1. はじめに

クリーン開発と気候に関するアジア太平洋パートナーシップ (APP) 鉄鋼タスクフォースのたていし・じょうじ議長とシン・デオ共同議長が 2007 年 3 月 15 日、インドのコルカタのホテル・ハイアット・リージェンシーで、第 3 回会合の開会を宣した。会合には全 6 カ国から 36 代表と、インド鉄鋼業界から個別に招かれたオブザーバー数人を合わせて総勢約 60 人が参加した。

今回のタスクフォース会合に先立ち、インドが主催した第 2 回ワークショップが 3 月 14 日に同地で開かれ、鉄鋼タスクフォースのメンバーを含む 110 人余りが参加した (項目 4 を参照)。

会合の最終日に予定される SAIL のドゥルガプル製鉄所視察は、前日に発生した残念かつ不測の治安情勢により中止になった。

#### 2. 議題採択

議案と注釈が提出され、タスクフォース・メンバーは原案どおり、第 3 回会合の議題を採択した。

#### 3. 現状報告

日本が 2006 年に韓国の済州島で開かれた第 3 回政策実施委員会 (PIC) の結果を簡単に報告した。PIC では、アクションプラン案が原則支持されたほか、資金調達制度を作り上げる一層の作業や旗艦プロジェクトを明確にする必要性が認識された。

#### 4. 個別プロジェクトの議論

##### プロジェクト 1: ワークショップ

前日開かれた第 2 回ワークショップは、以下に挙げたテーマを扱い、各参加者がセッションの各テーマで少なくとも 1 回発表して貢献した。

セッション 1: 政策イニシアチブと計画立案

セッション 2: 技術

### セッション 3： 最優良事例

#### \*プロジェクト 2： 省エネのための鉄鋼産業関連指標の現状評価など

日本が、普及調査の結果と追加調査から予測されるポテンシャルを報告した。追加調査は、省エネと環境に配慮した排出削減に向けて、正確性の向上と改善ポテンシャルを予測するためのデータ対象拡大を目指して行われた。

東京での第 1 回ワークショップで合意したとおり、共通の境界定義を設定し、合意することが、ポテンシャルの効果的な分析にとって極めて重要なため、日本がデータシートの書式と合わせて、データの取り扱いに適用される基本概念を提案した。メンバーは、翌日の小規模な専門家小グループ会合（SG）で議論を継続することで合意した。SG の議論を通じて、データシートの書式と調査方法論は合意した。調査は当初の予定どおり、6 月までに完了する。

#### プロジェクト 3： パフォーマンス指標の設定

前回タスクフォース会合の結論に従い、韓国（このプロジェクトを担当）が、2005 年についての環境・エネルギー関連パフォーマンスのデータを収集分析するため、調査書式を考案した。会合に先立ってデータを提出してもらうため、書式が参加者に送られた。韓国は本日時点で入手できるデータの間調査結果を発表した。韓国は続いて、次の段階の仮予定表を発表し、その中にはプロジェクト報告案に向けた完了目標日も含まれていた。参加者はこの予定表を承認した。

#### プロジェクト 4： パフォーマンス診断

中国とインドはこのプロジェクトを通じて、省エネと環境保護のパフォーマンス診断に基づき、参加国の鉄鋼プラントの適切な改善計画を自主的に助言する体制の創設を求めた。日本が先頭に立って同プロジェクトに貢献する意欲を見せた。インドが 2006 年 12 月に提案した 5 つの候補プラントに対して、日本の取り組みの現状を議長が紹介し、インドが歓迎と感謝の意を示した。議長は、中国が候補プラントを提案し、他の参加者がさらに情報提供や貢献を果たしてくれるように勧めた。

#### プロジェクト 5-1： 最良利用可能技術ハンドブック

東京での前回タスクフォース会合で、関係技術に対する参加者の理解を深めるための「最先端クリーン技術（SOACT）ハンドブック」に入る各技術につき、1 ページずつ概要説明を作成することで合意した。米国チームがこれに従って関連技術情報を集約し、最新の SOACT ハンドブック案と概要シートのサンプルを発表した。

今回合合では、ハンドブック案の形式や内容に関して、参加者からフィードバックと提案がいくつか行われた。公開の形と時期に関するその後の議論で、2007年5月1日までにウェブ形式で文書を公開する目標が合意された。ハンドブックはまず、専門家の意見を聞くため、鉄鋼業界内で入手できるようになる。拡大版（SOACT パート II）の計画など、プロジェクトの次の段階が話し合われ、参加者で原則合意した。

### **プロジェクト 5-2： 技術普及**

オーストラリアが、プロジェクト 4、5-1、5-2 のつながりについて発表した。参加者は、技術普及プロジェクトが最先端技術に焦点を当てる機会になる点で重要だと同意した。インドが前回合合で挙げた 15 のプロジェクト候補に触れて、タスクフォースは参加国が自ら名乗り出て支援を明らかにすることを目指し、オーストラリアが挙げた修正とともに 1 件ずつ見直し、実施の可能性と現実的側面を評価した。オーストラリアは、各プロジェクト候補を回覧するように提案した。参加者には、全参加者が検討できるようにプロジェクト候補を提示してもよいと注意喚起があった。

### **・他のタスクフォースとのセクター横断協力**

オーストラリアが、アルミニウム・タスクフォースから受けたボーキサイト残渣（赤泥）の提案に関連する活動報告を含め、セクター横断プロジェクトの可能性について発表した。同国チームは、セメントなど他のタスクフォースとのセクター横断プロジェクトについて、共同作業を行う可能性の一般的側面を論じた。

タスクフォースは、他のタスクフォースの関連する動きを注視しつつ、APP 活動項目として新たな調査活動を立ち上げる可能性を詳しく調べることで合意した。オーストラリアは、アルミニウム・タスクフォースの議論の結果を引き続き参加者に伝える役割を担う。

## **5. 他の事項**

タスクフォースが近いうちに旗艦プロジェクトの候補特定に取り組むように中国が提案し、オーストラリアが同意した。

「タスクフォースへの追加ガイダンス」、「新規プロジェクト・活動をパートナーシップに追加する手順」がタスクフォース参加者に配布された。

## **6. 次のステップと結論**

次回タスクフォース合合は、2007年10月にオーストラリアで開かれ、続いて2008年に中国で第5回タスクフォース合合が開かれる。詳しい合合日程は両主催国が調整し、議長が4月末までに発表する。

議長が、全参加者とインドの親切なもてなしに謝意を示し、閉会を宣した。